

撮影を終え、関係者と記念撮影する錦織監督（前列右から4人目）と大谷さん（同5人目）＝27日、鳥取県倉吉市研屋町の白壁土蔵群



# 倉吉でランクアップ

錦織監督「都会ではあり得ない協力」

映画

遙かな町へ

倉吉ノスタルジー

鳥取県倉吉市を舞台にした映画『遙かな町へ』（錦織良成監督）が27日、ランクアップを迎えた。主演の大谷亮平さん（44）ら出演陣に関係者が記念品などを手渡してねぎらった。作品は編集作業を経て、来秋に全国公開される。

この日は市中心部の白壁土蔵群内の古民家（同市研屋町）で、大谷さん演じる主人公の博史が家族でだらんとするシーンを撮影。大谷さんの最後のシーンにオッケーの声がかかると、市や県の関係者が出演者に倉吉餅など市の特産品を手渡して祝福した。

錦織監督に握手でねぎらわれた大谷さんは「素晴らしい原作を倉吉の地で撮影し、無事終えられたことがうれしい」と安堵の笑みを浮かべた。現場を後にする際、周辺で見守っていた地

域住民らに「無事終わりました。とても楽しかったです」と一礼すると、温かい拍手が沸き起こった。

映画は漫画家の故・谷口ジローさん（鳥取市出身）が原作で、倉吉市出身の主人公・博史が、1998（平成10）年から63（昭和38）年にタイムスリップし、中学校生活を追体験しながら人生を見つめ直す物語。

撮影は8月20日から始まり、白壁土蔵群や湯梨浜町の石脇海岸など作中に登場する場所ですべてロケが行われた。年明けに編集作業を終え、来春から順次国内の映画祭に出展。秋に一般公開が予定されている。

撮影を終えた錦織監督は「都会ではあり得ない協力をいただいた」と地元の支援に感謝。「古いまちの残る倉吉は時代の最先端。自然の残る地方の方が幸せな人生が送れるという思いで編集作業に当たる」と意気込みを語った。

（井田慎一）

映画『遙かな町へ』日本海新聞（2025.9.28\_1面掲載）